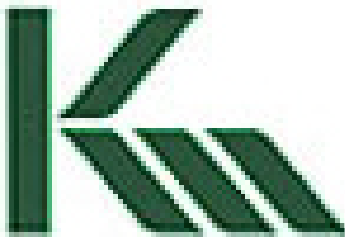


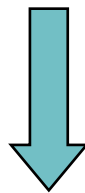


臨床看護師の医行為における 業務拡大に向けて

医療法人 鉄蕉会 亀田総合病院
嶋田 猛



チーム医療推進に関する検討会での検討事項としては、特定看護師(仮称)の医行為の内容以外に臨床看護師の業務拡大について検討事項として含まれている。



臨床現場では、どのくらいの教育でどのような医行為が可能なのか？

発表内容

1. 救命救急センターの状況
2. トリアージナース教育を中心とした当施設の救急看護師教育内容
3. トリアージナース業務について
4. 救急看護師の成長・発達について
5. トリアージナースが行う医行為としての業務拡大の提案
6. 業務拡大に伴う改善点
7. 課題

救命救急センターの状況

1. 救急外来のコンビニ化と言われ、時間外外来のようになってきた。
2. 医療機器やスタッフの充実した施設への受診が増え、一極集中型となってきた。
3. 軽症のうちに終わらせたい、一刻も早く安心が欲しいと何時でも早期に受診を行い、その場での完結医療を求めるようになってきた。
4. 核家族化・少子化・情報社会となり、成人・小児を問わず重症かもしれないという急病不安を持つようになった。
5. 団塊の世代がシニア世代となり、ますます医療ニーズが増加してくる。



救急外来での患者数の増加

救急医療における需要と供給の バランスの崩れ



1

- 救急外来でトリアージを行うことにより、貴重な医療資源を効率よく効果的に使用できる。

2

- 救急外来における患者の流れを管理できる。



患者の重症化を回避し、早期から健康回復に支援できる。

トリアージの定義

(救急外来で行う施設内トリアージ)

トリアージとは、批判的思考法を用いて並び替えを行う過程であり、患者が救急部に到着次第、迅速に経験のある専門看護師が以下の評価を行う。

- ◆現在の症状を評価し、重症度を決定する。
- ◆患者をトリアージのカテゴリーにあてはめる。
- ◆適切な治療を受けるまでの過程を決定する。
- ◆効果的・能率的に業務を遂行するために、適切な人的医療資源を割り当てる。

当救命救急センターの状況

- ◆ 昭和60年に救命救急センターとして認定された。
- ◆ 第1次から第3次対象患者を受け入れている。

< 多い月の患者数 >

来院患者数：約3000人/月、約100人/日

入院患者数：約550人/月、約18人/日

救急車台数：約450台/月、約15台/日

診療体制

<日中>

Walk in担当：救急科医師

救急車担当：救急科医師

<夜間>

Walk in担当：内科系・外科系・小児科当直医師

救急車担当：救急科医師

**24時間各診療科拘束体制*

当施設における看護師継続教育について

2003年より発達段階別教育

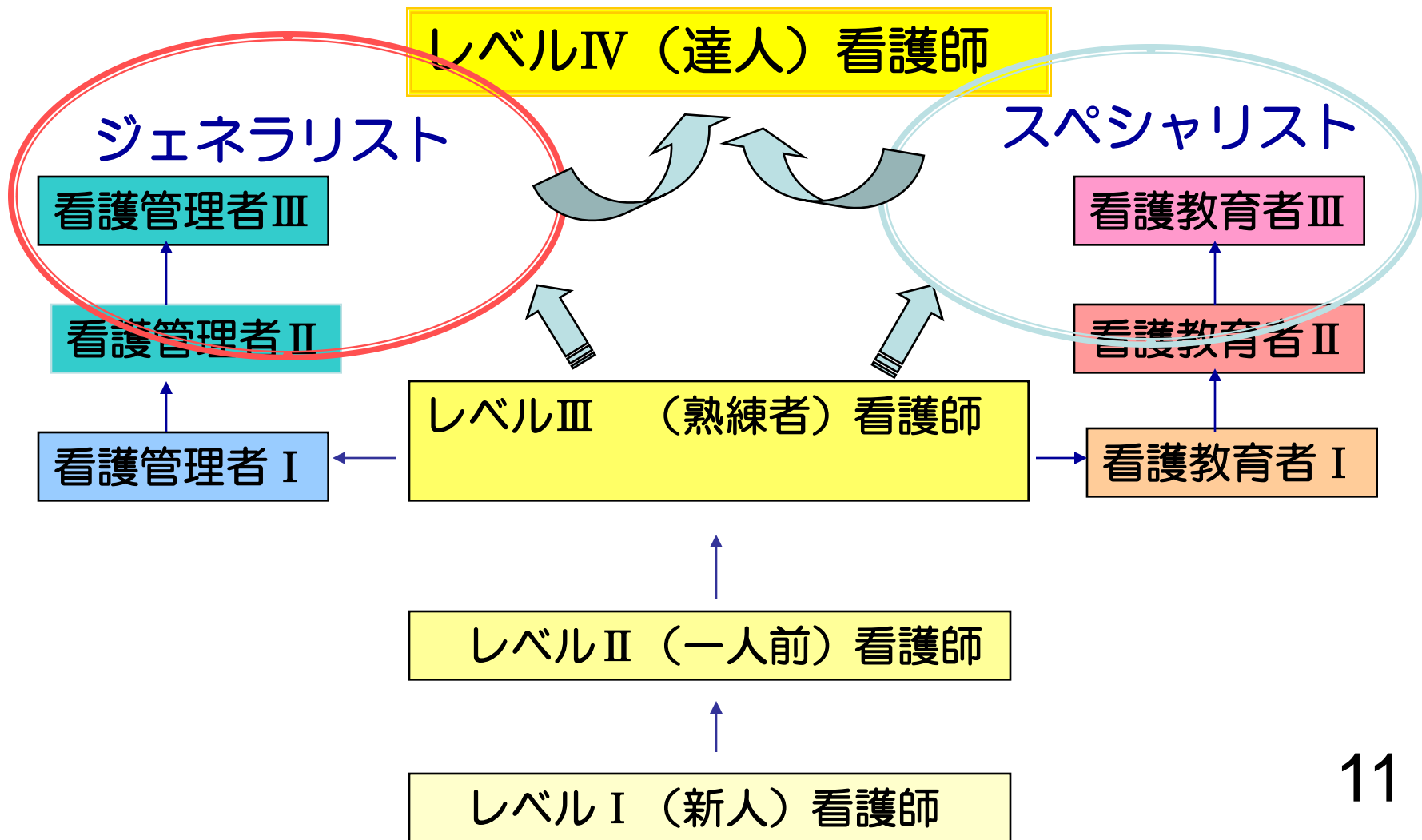
キャリア・アドバンス・システム(CAS)を採用

*「個人のニーズ」と「組織のニーズ」の調和を図りながら、個人のキャリア発達を支援していくシステム

<目標>

- 1) ベッドサイドナースの臨床看護実践能力の育成
- 2) 臨床におけるリーダーシップ能力の育成
- 3) チーム医療に必要なコミュニケーション能力の育成
- 4) 他の看護師のロールモデルとなる看護師の育成
- 5) ジェネラリストナースの育成
- 6) 専門的なサイコモータススキルの育成
- 7) セルフラーニングを奨励する。

看護師のキャリアアップイメージ



キャリア・アドバンス・システム(CAS) について

CASを構成する概念

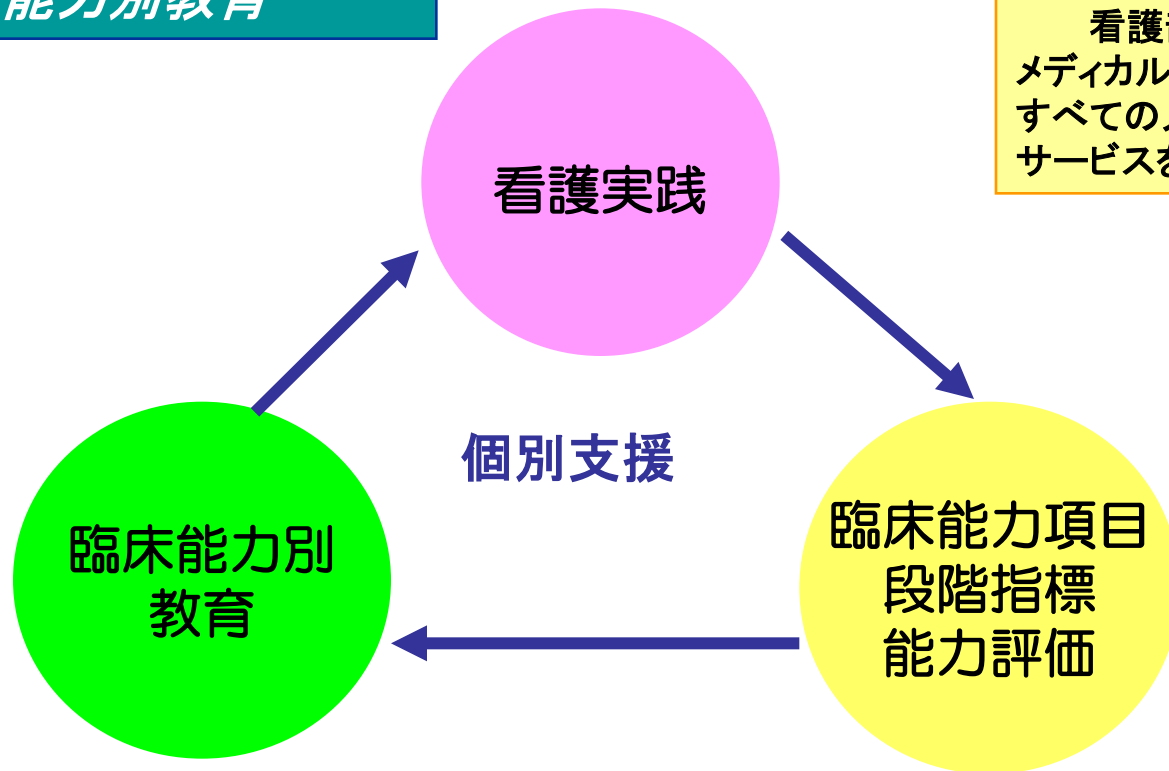
- 看護実践
- 臨床能力項目
- 臨床能力の段階指標
- 評価ツール
- 臨床能力別教育

亀田メディカルセンターの使命

全ての人々の幸福に貢献するために愛の心を持って常に最高水準の医療を提供し続けること



看護部門の使命
メディカルセンターの理念に則り、
すべての人々に最高水準の看護
サービスを提供する



レベル	ナーシングプロセス	教育能力/自己学習能力	リーダーシップ能力	専門職業人としての自覚/行動
IV (達人)				
III (熟練者)				
II (一人前)				
I (新人)				

成長発達段階ごとの特徴が記されている。
『自己の看護実践能力』と照らし合わせる
ことで、今自分がどのレベルにいるのか
課題・目標が見える。

キャリア アドバンス システム

	全体像	ナーシングプロセス				教育能力／自己学習能力	リーダーシップ能力	専門職業人としての自覚／行動
		1)アセスメント	2)計画	3)介入	4)評価			
レベルⅣ	<ul style="list-style-type: none"> 高度な専門知識、技術に裏付けられた看護実践を展開する 所属された看護分野において熟練された知識技術を用いて水準の高い看護実践ができる 現場において実践、指導、相談などの役割を果たし看護ケアの広がり看護の質の向上に貢献できる 臨床現場の変革推進者となる 	<ul style="list-style-type: none"> 看護理論と自己の看護観と関連させながら看護過程を実行している 現場において実践、指導、相談の役割機能を果たしている 				<ul style="list-style-type: none"> 実践における問題に応じて研究し院内外に発表している 研究成果を専門誌、学会誌に発表している 最新の研究結果を把握し現場の看護実践の向上に努める 	<ul style="list-style-type: none"> 医療チームのリーダーとコーディネーターの役割を果たす 亀田の使命、ビジョンを実行するためのプロジェクトにおいてリーダーの役割を果たすことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 全国レベルの看護組織において看護の向上のために活動をしている 高度専門看護師としての意識を内外に向けて発言している
レベルⅢ	<ul style="list-style-type: none"> 同じあるいは類似した環境で5年以上仕事をしている看護師 状況を全体として捉える ルールやガイドラインに頼らず豊かな経験から状況を直感的に把握する 病院の使命や自己の看護観と関連させ問題解決ができる 将来看護主任や看護教育部長への道を選択できる基礎的コンピテンレベルである 	<ul style="list-style-type: none"> 複雑な状況を把握し大切な情報を選択し全体的にとらえる 複雑なデータベースに基づいて的確な看護診断を決定している 患者の急変を事前に察知する能力を持っている 	<ul style="list-style-type: none"> アセスメントデータが変わることに伴い、何を優先すべきか判断し計画的な変更できる 疾患別や看護理論を基礎とした計画を立てられる 他の医療チームと協力して限られた資源(経済的等)の中で創造的な計画を立案する 	<ul style="list-style-type: none"> 患者、家族、同僚、他職種から実践能力を認められ尊敬、信頼されている QI活動に参加しリーダーシップを発揮する 臨床的なエキスパートとして機能する 他部門からなるチームメンバーとしての状況に応じてコーディネートする 	<ul style="list-style-type: none"> 臨床的な患者教育／スタッフ教育ができる 他のスタッフの知識・技術の向上のために必要に応じてコーチングする 他のスタッフのモデルとなるような行動をとっている 新しい技術・プロトコル・規則・新しい設備を把握し他者に説明できる 臨床(スペシャリティ)におけるスタッフの学習ニーズを察知し教育計画を立て実行する 生涯学習理念に従って自己の専門領域の学習を行っている 先行研究に目を通し自己の研究課題を定めたくあて研究することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ヘルスケアに関連した地域のボランティア活動をしている チーム医療における良好なコミュニケーションがとれる 自発的に協力を惜しまず行動し他者の手本となる チーム医療(部門間)における問題に対しその解決方法を探し解決に努める 院内の委員会に自発的に参加する 亀田における患者ケアの向上のビジョンを実行するための色々な変化活動に参加する スタッフ間のコンフリクトのマネージメントを支援する 動機(ポジティブな気持ち)が出てくるような環境を作れる 自己のリーダーシップ観念を内省し効果的なリーダーシップ機能を身に付ける(エンパワー機能) 	<ul style="list-style-type: none"> スタッフ間が気持ちよくまたプロフェッショナルな行動がとれるよう自ら環境を整える 看護職の向上を図るための行動をとる 看護協会の活動に貢献している 看護のポジティブなイメージを社会に伝えるよう努力している 	
レベルⅡ	<ul style="list-style-type: none"> 同じあるいは類似した環境で2年以上仕事をしている看護師 長期目標や計画を立てて意識的に自分の活動ができる 現在及び予測される状況で何が重要であるか判断できる 一人前の日常業務ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 個別的なケア計画を作成するために患者の全人的(生理的・精神的・社会的)データを収集できる アセスメントデータより大切なものを察知する EBで看護診断を決定し優先順位を決定できる 	<ul style="list-style-type: none"> 達成可能な目標を立て実践可能な計画を立てることができる 退院計画を入院時より念頭に記入している 臨床的な意思決定をする場合、資源(経済的等)にあった決定ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 個別的ニーズに応じて計画をフレキシブルに修正し実践している 常に退院時の教育ニーズを察知し教育する 院内のルールによってケアの記録を行う 急変時に即時適切な対処行動がとれる 	<ul style="list-style-type: none"> 患者家族の反応、資源、ケアの結果によって計画を修正する 患者、家族より信頼と満足を得る ペットサイドケアに関する問題を提起し解決しようとしている 	<ul style="list-style-type: none"> 長期的な自己学習計画を立て実行している 新人や学生の指導ができる 自主的に院内外の研修に参加している 患者ケアに必要な知識を常に検索する習慣が身に付いている 自分の行った実践を内省し知識向上に努めている 病棟レベルの看護研究発表会で問題のあった事例分析など発表をしている 研究された成果を現場で活用している 	<ul style="list-style-type: none"> 他のヘルスケアメンバーと効果的なコミュニケーションがとれる 問題が起きた場合病院の組織の構造を知り適切なコミュニケーションがとれる 亀田総合病院で起こす変革を理解し行動する 患者及びスタッフに対しフレンドリーな環境を作る努力をする チームリーダーとして活躍できる 委員会の活動を積極的に行っている 業務の優先順位を考慮調整し任務を遂行できる 	<ul style="list-style-type: none"> 他の人の批判を受入れ自己改善ができる 亀田の職員として亀田ビジョンにあった行動をしている
レベルⅠ	<ul style="list-style-type: none"> 同じあるいは類似した環境で2年以上仕事をしている看護師 決められた基準や手順に従って行動する 必要に応じて指導者の助言を得て看護過程を踏まえた個別ケアが実践できる 	<ul style="list-style-type: none"> 決められたフォーマットに沿って患者家族から情報収集できる 患者の全人的(生理的・精神的・社会的)データを収集しようとする 看護診断名とその意味を理解し決定していけるよう努めている 	<ul style="list-style-type: none"> 1年目看護師は目標と介入計画を立てその妥当性をプリセプターと確認する 2年目以上の看護師は必要時レベルⅡ以上の看護師と確認する 	<ul style="list-style-type: none"> 救急の事態を察知し必要な助けを求め自らも対処に加わり行動する 患者の安全環境を維持する 基礎的な看護技術・知識を活用する 1年目看護師は必要な観察事項を記述しプリセプターに確認してもらう 2年目以上の看護師は必要時レベルⅡ以上の看護師に確認してもらう 安全なケアをするための習慣を身につけている 患者満足を意識した対人関係づくりの習慣が身に付いている 	<ul style="list-style-type: none"> 患者や家族からの苦情がない 長期、短期の目標達成を念頭に評価している 自己の行為が対象にもたらした結果を評価する習慣を身に付けている 病棟内のQI活動に参加している 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の学習ニーズをキャッチし必要に応じて知識、技術の習得に努めている 必須の院内教育を完了している 身近な専門誌などに発表されている 研究成果を読んでいる 病棟レベル行っている看護研究発表会に参加している 	<ul style="list-style-type: none"> 看護部の組織構造と目的を知っている 病院のルールを守ってチームメンバーとして行動する 重要事項、緊急事項の報告、連絡、相談が適切にできる 亀田総合病院の理念やビジョンを知っている リスクマネージメントの目的を知っている 	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみに気を付けプロフェッショナルな印象を与える行動や発言をするよう心がけている ケアリングな態度を身に付けている 看護協会に加入している